

いとうしゅんや/患者中心の医療実現のために、国内外を問わず数多くの医療現場取材。現場にこそ真実がある!と医療改革のため、多くの問題提起をする。著書に『最強ドクターの奇跡』など

State-of-the-Art
Medical Treatment
in Japan
by Shunya Ito

その治療法は
本当に
効くのか

行って、見て、聞いた

連載第五回

伊藤隼也

医療ジャーナリスト・写真家

痔

痔……。その起源は人類が直立二足歩行を始めたときに遡り、かのナポレオンも痔に苦しめられたという。現代でも人知れず悩む人は多く、成人の3人に1人がいわゆる「痔主」という。

痔とは肛門とその周辺にできるさまざまな疾患の総称だ。肛門周囲の粘膜に傷がつく「切れ痔(裂肛)」、直腸の組織が外に出る「イボ痔(痔核)」、肛門周囲に穴が空く「あな痔(痔瘻)」などがあり、うち5割以上を占めるのがイボ痔だ。発症する場所により、「内痔核」と「外痔核」に分けられる。

痔核は、排便時のいきみや長時間の座り仕事など、腹圧による肛門部への過度の刺激や血行障害によって起こる。意外だが、ゴルフ

PPHが始まった。患者さんは腰麻酔をしたあと、腹ばいになっている。腰麻酔なので、医師とは普通に会話ができる。

辻仲医師の指示で看護師がおもむろに取り出したのが、「PPHセット」(写真)。なかには、対戦車ロケット砲を40cmほどの大きさに小型化したような器械が。もしかして、これを肛門に入れるのか!

「そうですよ。これがPPHで使われる自動切除縫合器です。これで粘膜を切除し、チタン製のステイプルで縫合します」(辻仲医師)

辻仲医師は、ロケット砲の先端を肛門に挿入し、本当にトリガーを引いた。小さく、「パンッ」という乾いた音がした。しばらくしてそろそろ引き抜くと、その先端には竹輪のような物体が。切り取った直腸の粘膜だという。最後に、止血とガス(おなら)が出やすいようにタオルで巻いたドレーンを入れて手術は終了した。

今週取材した医師・病院

東葛辻仲病院
肛門科
辻仲康伸 医師
住所/千葉県我孫子市
根戸946-1
電話/04-7184-9000

このほかに「PPH」を行っている病院

東邦大学医療センター大森病院
消化器センター(外科)
住所/東京都大田区
大森西6-11-1
電話/03-3762-4151

三重大学医学部
附属病院
消化器外科
住所/三重県津市
江戸橋2-174
電話/059-232-1111

大阪北通信病院
肛門科
住所/大阪府大阪市北区
中崎1-1-6
電話/06-6361-2071

鯉島病院
肛門科
住所/鹿児島県鹿兒島市
加治屋町9-8
電話/099-224-2277



(左) 肛門に器械を挿入するまで先を切端を差し込んだ後、トリガーを引く。(右) PPH専用の自動切除縫合器。見た目はまさに対戦車ロケット砲だ



のスイングなどスポーツ時のいきみでも発症することがある。

今回は「内痔核」治療にPPH (PROCEDURE for PROLAPSE and HEMORRHOIDS) という画期的な治療法があることを知り、さっそく、取材に出かけた。

訪 ねた先は、大腸や肛門の専門病院、東葛辻仲病院(千葉県我孫子市)。ここに10年ほど前からPPHを治療に取り入れる辻

早い。手術時間は平均約15分。今回も、入室から退室までに30分もかかっていない。

「手術時間に関しては、結紮切除術とあまり変わらないんですよ」と辻仲医師は言う。では何が患者にとってのメリットなのか。

「一般的な痔の手術は痛みを感じる肛門部分を切開するので、術後痛みがかなりありますが、PPHは神経が通っていない直腸の粘膜を切るため痛みがほとんどありません。実際、結紮切除術ではすべての患者さんが痛み止めを飲みますが、PPHでは3分の2の方が

成人の3人に1人が「痔」
直腸の組織が外に出るのか「イボ痔」
イボ痔は下イレやゴルフの「いきみ」が原因
座りっぱなしの血行不良も要注意
痛みない痔の治療法がある

仲康伸医師(院長)がいる。辻仲医師によると同病院では昨年だけで約80件強、これまでに1750件余りのPPHを行っている。

PPHとはどんな治療かを説明する前に、なぜ内痔核ができるのかを少し解説しておこう。

直腸の内側には、筋繊維組織と毛細血管からできたクッションのような部分がある。いきみを繰り返しているとその部分が鬱血(血液循環が悪くなること)し、腫れてくる。ひどくなると肛門部以下がつってきて、これが痔核になる、というわけだ。

イボ痔は、
Ⅰ度…排便時に出血する
Ⅱ度…排便時に痔核が脱出するが、自然に戻る
Ⅲ度…痔核が脱出して、指で押し

飲まないですみます。人にもよりますが、排便もその日からできるので、患者さんには負担の軽い治療だと思えます。入院日数もPPHは3泊4日で、結紮切除術の7泊8日に比べて早い。欧米では1泊入院か、日帰りで行っているほどです」

時 間が経つと再発することもある。それを加味しても、ほぼ無痛ですむのであれば、この治療法は画期的だ。だが、辻仲医師が日本に持ち込んだ当初、学会から総叩きを食らったという。

「痔核を取らないPPHに対し、痔核は取るもの」という固定観念があった多くの医師は、疑問を持ったのだと思います」

欧州ではこの十数年の間に65万人が受ける評価の高い治療法になったが、日本では現在もそれほど行いう施設が増えていない。

「誤って直腸に穴を空けてしまう『直腸穿孔』などはかなりまれです。指導医のもとで30例ほどのト

込まないと戻らない
Ⅳ度…常に脱出し、元に戻らないと、進行度によりクラス分けされ、痛みはⅡ度ぐらいからある。

治療が必要なのは、進行度にかかわらず症状がひどく日常生活に支障がある場合で、手術することが多い。よく行われるのが、痔の根もとを縛って切除する「結紮切除術」で、このほかに痔核を薬で硬くして固める「硬化療法」、特殊なゴム輪で縛って壊死させる「ゴム輪結紮療法」などがある。

「痔核つり上げ固定術」と言われるPPHは03年にイタリアで開発された術式で、結紮切除術の代わりに行われる。簡単に言うと、直腸の粘膜を切って縫い縮めることで、はみ出た痔核を肛門内に引っ込めようという方法だ。

レニングをきちんと積んで、適応さえ間違えなければ、技術差が発生しにくい治療だと思えます」(辻仲医師)

PPHはなぜ広まらないのか。PPHは05年に「先進医療」として厚生労働省より認可され、その後、08年4月から健康保険が適用となった。基本的に痔核の手術は6万3900円(手術のみ。患者は3割負担※)かかる。結紮切除術の場合、材料費は糸だけなので病院側の負担は軽い。だが、PPHは高価な医療機器だ。経営を考えると、多くの病院は一件あたり約4万円のコストを負担しなければならぬPPHの導入に踏み切れないのではないか。

患者にとって本当に良い治療法とは何なのか。厚生省は認可したのちもきちんと検証するようにシステムを改めないと、本当にメリットのある治療を患者は受けられないことになる。その結果、損をするのはわれわれ患者なのだ。